

外為マンスレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/04/01

「リスク・オン」の地合いが続くかが鍵

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	「リスク・オン」で買われやすい通貨 予想レンジ: 92.000 ~ 98.200 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	➡	利上げペースを確認 予想レンジ: 86.700 ~ 92.500 円	4-5
<u>ランド/円</u>	➡	引き続き買い材料に乏しい 予想レンジ: 9.300 ~ 10.000 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



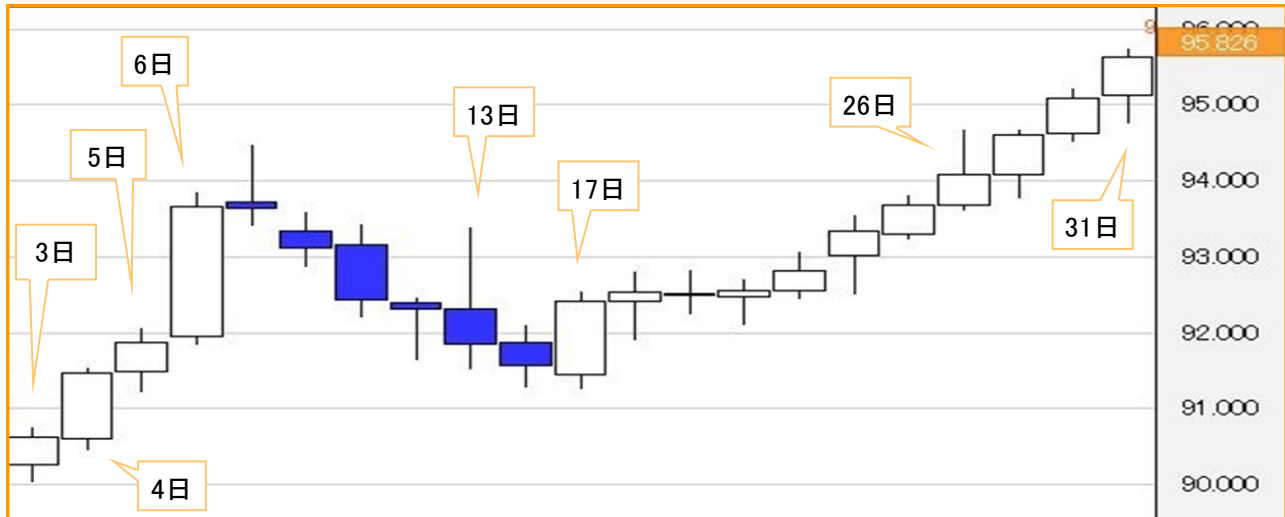
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	90.262円	95.738円	90.053円	95.641円



3日	ウクライナ情勢不安を嫌気したリスク回避ムードが先行し、豪ドル/円は90.053円まで下落。ただ、その後は大きく下げた日経平均株価が持ち直した上、上海株の上昇もあり反発した。
4日	豪準備銀行(RBA)は政策金利の据え置きを発表するも声明文で「豪ドル相場は歴史的に見て依然として高水準」としたため、直後は乱高下となった。その後、プーチン露大統領が「ロシアがウクライナに軍を派遣するのは極端なケースのみ」「クリミア半島への武力行使については現時点では必要ない」等と発言し、ウクライナを巡る東西の緊張が軍事衝突につながるとの恐怖感が和らいだ。これを受けた欧米株高により、豪ドル/円は上昇した。
5日	豪第4四半期国内総生産(GDP)が前期比+0.8%、前年比+2.8%と予想(+0.7%、+2.5%)を上回り、豪ドル/円は発表前の水準から40銭超急騰した。
6日	豪1月の小売売上高が前月比+1.2%、貿易収支は14.33億豪ドルの黒字といずれも予想(+0.4%、1.00億豪ドルの黒字)を上回った。これを好感して豪ドル/円は上昇。その後「公的年金の財政検証で厚生労働省は『GPIFに国内債中心の運用を求めない』との草案を出した」との報道を受けて円売りが優勢となった上、NYダウ平均株価の上昇も重なり、93.849円まで続伸した。
13日	豪2月失業率は予想通り6.0%であったが、新規雇用者数が4.73万人増、労働参加率は64.8%と予想(1.50万人増、64.5%)を上回り、前月分が上方修正(新規雇用者数:0.37万人減→1.80万人増、労働参加率:64.5%→64.6%)された。これを受けて豪ドル/円は急騰。その後NYダウ平均株価の上昇を受けて93.398円まで続伸するも、ケリー米務長官の「クリミア自治共和国でロシア編入の是非を問う住民投票が予定通り実施されれば『一連の重大な措置』を発動させる」との発言を受けリスク回避の動きが広がり、一時91.539円まで反落した。
17日	豪ウエストパック銀行が豪州の雇用や消費の見通し改善を理由にRBAの2014年の追加利下げ予想を撤回し、最初の利上げ予想時期を「2015年7-9月期」と発表。これを受けて豪ドル買いが強まった。
26日	スティーブンスRBA総裁が交易条件の悪化を前提とすれば、豪ドルは下落するとの見方を示したものの、豪ドル高に強い懸念を示さなかった。これを受けて豪ドル買いが強まり、94.678円まで上昇した。
31日	米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の「経済は異例の支援をしばらくの間必要とする」等の発言を受けてNYダウ平均株価が上昇すると、豪ドル/円は13年10月以来となる95.738円の高値を記録した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

3月の豪ドル/円相場は90.053～95.738円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約5.2%の大幅上昇（豪ドル高・円安）となった。月初こそウクライナ情勢不安からくるリスク回避の動きを受けて弱含むも一時的。その後はウクライナ情勢や中国景気についてリスク回避心理をあおる材料が出なかったのを始め、RBAが政策スタンスを変更（緩和的→中立）したことや、複数の豪経済指標が豪州景気の堅調推移を示唆したこと、RBA要人が豪ドル高に強い懸念を示さなかったことなどから、2013年6月以来の高値水準へと上昇して月の取引を終えた。豪ドル買いの強さが窺われる。

4月1日のRBA理事会では豪ドル高について言及（最近の豪ドル上昇、景気への支援効果を弱める見込み）しているが、以前（不快なほど高い）ほどの強い口調ではなかった。豪州はトリプルA格（S&P）を有している上、当面は政策金利を2.50%で据え置く公算である事から、売られにくいだろう。また株高により「リスク・オン」となれば豪ドル買いが入りやすいと見られる。

ただし、以下2点には注意したい。一つは豪ドルが対米ドルで大きく上昇する場面であり、RBA要人が豪ドル高をけん制する可能性がある。そして、リスク回避ムードが強まる場面もまた、豪ドル相場の重石となる。ウクライナ情勢や中国経済の動向に注意したい。（川畑）

（予想レンジ：92.000～98.200円）

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

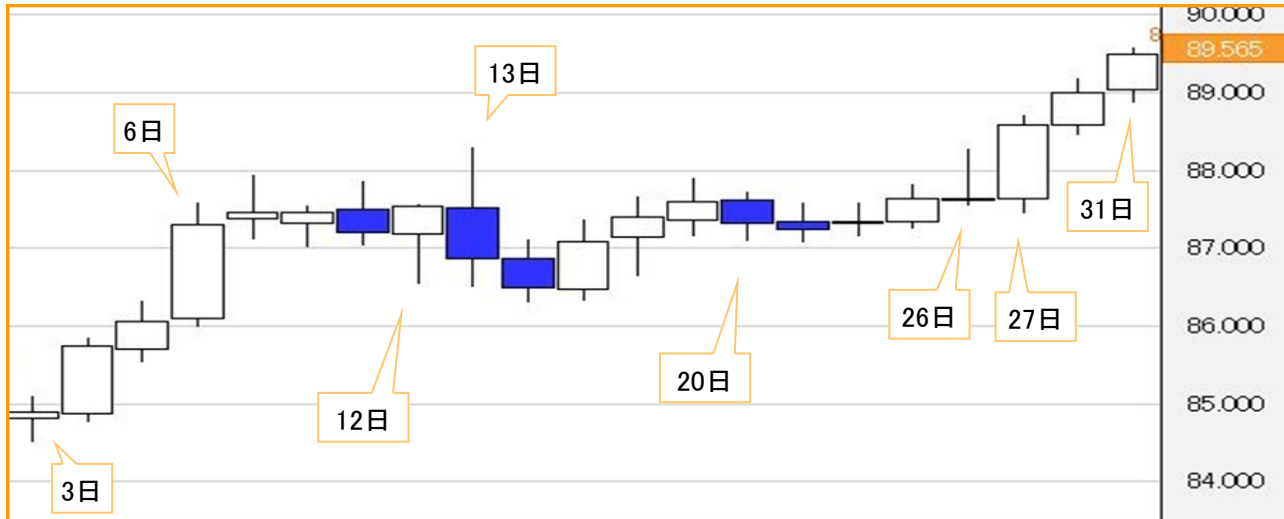
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/1(火)	日銀短観	4/10(木)	3月中国貿易収支
	3月中国製造業PMI		3月豪雇用統計
	RBAキャシュターゲット	4/11(金)	3月中国消費者物価指数
	3月米ISM製造業景況指数		4月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
4/2(水)	2月豪住宅建設許可件数	4/14(月)	3月米小売売上高
	3月米ADP全国雇用者数	4/15(火)	RBA議事録
4/3(木)	2月豪小売売上高	4/16(水)	3月中国鉱工業生産
	2月豪貿易収支		第1四半期中国GDP
	欧州中銀金融政策発表		米地区連銀経済報告（ページブック）
	3月米ISM非製造業景況指数	4/23(水)	第1四半期豪消費者物価
4/4(金)	3月米雇用統計		4月中国HSBC製造業PMI
4/8(火)	日銀金融政策決定会合（7日～発表）	4/30(月)	日銀金融政策決定会合
4/9(水)	米FOMC議事録（3月18・19日）		米FOMC政策金利発表

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

NZドル/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	84.821円	89.580円	84.522円	89.501円



3日	ウクライナ情勢不安を嫌気したリスク回避ムードが先行し、NZドル/円は84.552円まで下落。ただ、その後は大きく下げた日経平均株価が持ち直した上、上海株の上昇もあり反発した。
6日	「公的年金の財政検証で厚生労働省は『GPIFに国内債中心の運用を求めない』との草案を出した」との報道を受けて円売りが優勢となった上、NYダウ平均株価の上昇も重なり、NZドル/円は87.581円まで値を上げた。
12日	NZ準備銀行(RBNZ)が政策金利を0.25%引き上げて2.75%とした。声明で国内成長率(GDP)見通しを2014年末が+3.3%(従来+2.8%)、15年末は+2.4%(同+2.1%)とし、インフレ率見通しは14年末が+1.9%(同+1.5%)とした(15年末は+2.1%で据え置き)ほか、「今年は最高で合計1.25%の引き上げを予想」など、タカ派的な見通しを示した。これを受けNZドル買いが強まった。
13日	NYダウ平均株価の上昇を受けてNZドル/円は88.311円まで上伸するも、ケリー米務長官の「クリミア自治共和国でロシア編入の是非を問う住民投票が予定通り実施されれば『一連の重大な措置』を発動させる」との発言を受けリスク回避の動きが広がり、86.534円まで急反落した。
20日	NZ第4四半期GDPは予想通り前期比+0.9%、前年比+3.1%であったが、前回分が下方修正(前期比:+1.4%→+1.2%、前年比:+3.5%→+3.3%)された上、一部で上ぶれ期待が出ていた事もあり、NZドル/円は約30銭急落した。
26日	RBNZのスペンサー副総裁が「NZの輸出企業は高いNZドルに対応できている」などと発言。市場ではNZドル高容認と解され、NZドル/円は88.288円まで大きく値を上げた。しかし、オバマ米大統領の「ロシアのウクライナでの行動は非難されるべき」との発言を受け、クリミア情勢の悪化を懸念してNYダウ平均株価が下げに転じると反落した。なおNZ2月貿易収支は8.18億NZドルの黒字と予想(6.00億NZドルの黒字)を上回る黒字幅であったが、反応は限られた。
27日	一時下げていた日経平均株価が再びプラス圏に転じた事を受け、NZドル/円は堅調に推移。全般的な資源国通貨買いの動きも、上昇を後押しした。
31日	米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の「経済は異例の支援をしばらくの間必要とする」等の発言を受けてNYダウ平均株価が上昇すると、NZドル/円は2007年11月以来となる(89.580円)の高値を記録した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

今月のポイント

NZD / JPY

3月のNZドル/円相場は84.522円～89.580円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.8%の上昇(NZドル高・円安)となった。月初こそウクライナ情勢不安からくるリスク回避の動きを受けて弱含むも一時的。その後はRBNZ声明を受けて利上げペースが加速するとの見方が浮上した上、主要国株価が堅調に推移した事も重なり、リーマンショック後の戻り高値を更新した。

今月、RBNZの金融政策発表が予定されている。先月のウィーラー総裁発言を受け、市場では今年はあと6回ある会合のうち4回で利上げを実施するとの見方が広がった。今月利上げの可能性を読み解く上で、16日の第1四半期消費者物価に市場の関心が集まりそうだ。また、NZドルが金利先高観や対円での金利差拡大観測で買われるためには、少なくとも市場がリスク回避ムードが傾かない事が必要である。引き続き、ウクライナ情勢や中国経済の動向に注目したい。

ただ足下のNZドル相場は、対円ではリーマンショック後の高値を更新し、対ドルでは2011年8月高値(0.8843ドル)が見えてきた。市場が上目線となっている時だけに、NZドル高を強くけん制する発言が出るようならば、利益確定売りが強まる事も考えられる。RBNZの要人発言には注意が必要だろう。(川畑)

(予想レンジ:86.700～92.500円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

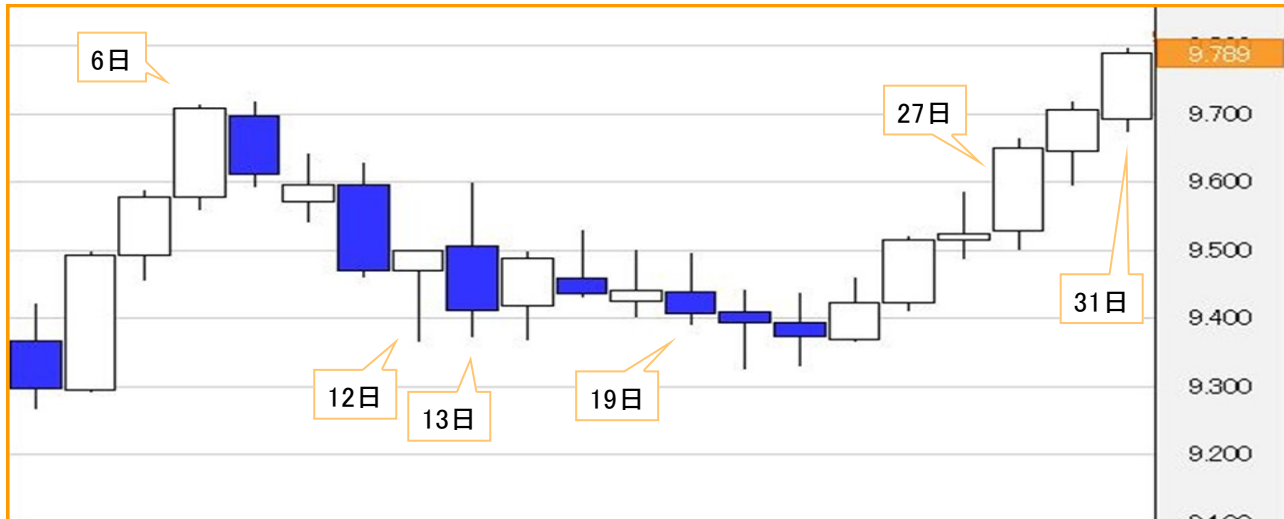
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/1(火)	日銀短観	4/16(水)	第1四半期NZ消費者物価
	3月中国製造業PMI		3月中国鉱工業生産
4/2(水)	3月米ADP全国雇用者数		第1四半期中国GDP
4/3(木)	欧州中銀金融政策発表		米地区連銀経済報告(ページブック)
	3月米ISM非製造業景況指数	4/23(水)	4月中国HSBC製造業PMI
4/4(金)	3月米雇用統計		RBNZオフィシャル・キャッシュレート
4/8(火)	日銀金融政策決定会合(7日～発表)	4/29(火)	3月NZ貿易収支
4/9(水)	米FOMC議事録(3月18・19日)	4/30(月)	3月NZ住宅建設許可
4/10(木)	3月中国貿易収支		日銀金融政策決定会合
4/11(金)	3月中国消費者物価指数		米FOMC政策金利発表
	4月米シガン大消費者信頼感指数・速報値		
4/14(月)	3月米小売売上高		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.368円	9.797円	9.269円	9.791円



6日	「公的年金の財政検証で厚生労働省は『GPIFに国内債中心の運用を求めない』との草案を出した」との報道を受けて円売りが優勢となった上、NYダウ平均株価の上昇もあり、ランド/円は9.715円まで上昇した。なお、南アの電力会社エスコムが「電力不足で計画停電が必要になる可能性が高い」との見方を示したが、市場の反応はほとんど見られなかった。
12日	前日の銅価格急落をきっかけに広がった中国の金融システム不安などから、欧州株が軟調に推移。リスク回避の動きからランド/円は9.368円まで値を下げた。しかし、その後はNYダウ平均株価が持ち直したため反発した。なお南ア第4四半期経常収支は対GDP比5.1%の赤字と前期改定値(6.4%の赤字)から縮小したものの、反応は薄かった。
13日	NYダウ平均株価の上昇を受けてランド/円は9.599円まで上伸するも、ケリー米国務長官の「クリミア自治共和国でロシア編入の是非を問う住民投票が予定通り実施されれば『一連の重大な措置』を発動させる」との発言を受けリスク回避の動きが広がり、9.375円まで急反落した。
19日	南ア2月消費者物価指数が前年比+5.9%(予想:+5.9%、前回:+5.8%)と、南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標(年+3~6%)の上限に迫り、ランド/円は9.496円までやや上昇。しかし、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長が「(量的緩和終了から利上げ開始前の相当な期間について)およそ6カ月を指す」と発言するとドル買いが強まり、ドル/ランド相場が上昇(=ランド下落)したため9.392円まで反落した。なお南ア1月小売売上高が前年比+6.8%と予想(+2.8%)を大きく上回るも、市場の反応は薄かった。
27日	SARBはほぼ市場予想通り、政策金利の5.50%据え置きを決定。ただ、声明で「インフレは上サイドのリスク」「引き締めサイクルにあるものの、毎会合で政策スタンスの変更が必ずしもあるわけではなく、変化幅の規模も一定とは限らない」などの見解を示した事や、今回の決定は4対3の僅差(3名は利上げを主張)であった事が明らかとなり、次回会合での利上げ期待が高まった。これを受けてランド買いが優勢となり、ランド/円は9.664円まで上昇した。
31日	イエレン米FRB議長の「経済は異例の支援をしばらくの間必要とする」等の発言を受けてNYダウ平均株価が上昇すると、ランド/円は9.797円まで値を上げた。南ア2月貿易収支が17億ランドの黒字(予想:40億ランドの赤字)となった事も、上昇を後押しした。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

3月のランド/円相場は9.269円～9.797円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは3.5%の上昇(ランド高・円安)となった。月初こそウクライナ情勢不安からくるリスク回避の動きを受けて弱含むも一時的となり、その後は主要国株価の上昇などを背景にやや値を上げた。

先月、ランド/円は上昇したとはいえ、NZドル/円(約4.8%の上昇)と比べると見劣りする結果となった。南アとNZで決定的に異なるのは利上げ観測の理由であり、NZは国内景気の回復であるのに対し、南アはインフレ対策である。しかも、南アを取り巻く環境は厳しく、国内経済の低成長を始め、プラチナ鉱山のストが収束していない事や、冬を前に電力不足の懸念もあり、積極的にランドを買う材料に乏しい。さらに、米早期利上げ観測が高まってドル買いが強まる場面では、経常収支が赤字である南アフリカの通貨ランドは売られやすいと見られ、今月も上値の重い展開が続く公算である。仮にウクライナ情勢不安や中国の成長鈍化懸念が後退してリスク回避の動きが和らいだとしても、NZドル/円よりも上昇の勢いは鈍いだろう。

なお、ドル/ランド相場を見ると、今年1月に11.39ランド台まで上昇(＝ランド安)した後軟調に推移しており、上昇チャネル下限(今月は9.96ランド台)に迫りつつある。ランド安のトレンドに変化が出るか、チャネル下限を巡る攻防の行方にも気を配りたい。(川畑)

(予想レンジ:9.300～10.000円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/1(火)	日銀短観	4/14(月)	3月米小売売上高
	3月中国製造業PMI	4/16(水)	3月中国鉱工業生産
	3月米ISM製造業景況指数		第1四半期中国GDP
4/2(水)	3月米ADP全国雇用者数		米地区連銀経済報告(ページブック)
4/3(木)	欧州中銀金融政策発表	4/23(水)	4月中国HSBC製造業PMI
	3月米ISM非製造業景況指数		3月南ア消費者物価指数
4/4(金)	3月米雇用統計	4/24(木)	3月南ア生産者物価指数
4/8(火)	日銀金融政策決定会合(7日～発表)	4/24(月)	4月中国HSBC製造業PMI
4/9(水)	米FOMC議事録(3月18・19日)	4/30(月)	日銀金融政策決定会合
4/10(木)	3月中国貿易収支		米FOMC政策金利発表
4/11(金)	3月中国消費者物価指数		3月南ア貿易収支
	4月米シガン大消費者信頼感指数・速報値		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。